

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和6年11月15日（金）午前10時00分～午前11時15分（9階904会議室）

○出席委員（9名）

委 員 長	根本 雅昭
副委員長	二階堂利枝
委 員	七島 奈緒
委 員	佐原 真紀
委 員	白川 敏明
委 員	後藤 善次
委 員	村山 国子
委 員	羽田 房男
委 員	真田 広志

○欠席委員（なし）

○市長等部局出席者（なし）

○案 件

所管事務調査「持続可能な農業の振興に関する調査」

- 1 行政視察の意見開陳について
- 2 今後の調査の進め方について

午前10時00分 開 議

（根本雅昭委員長）改めまして、おはようございます。ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付のとおりです。

持続可能な農業の振興に関する調査についてを議題といたします。

初めに、行政視察の意見開陳についてを議題といたします。

11月6日から8日までの3日間、持続可能な農業の振興に関する事例を聴取するため、長野県長野市、群馬県高崎市、新潟県長岡市の視察を行いました。本日は視察した自治体ごとに意見開陳を行い

たいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(根本雅昭委員長) それでは、そのように進めます。

まず、長野県長野市の視察に関する意見開陳を行います。もし共通する部分があれば、長野市のときか、または最後におっしゃっていただければと思います。

それでは、白川委員から順でお願いできればと思います。

(白川敏明委員) 長野市も福島市とあんまり中身は変わらないのではないかなと、こう思ったのですが、違うのは、一番感じたのは市長のトップセールス。やっぱりああいう有名人がやるとかなり違うのかなと。それがあったので、いやいやいや、うちの市長は有名かなと思ったりして、そういうのも必要なかなと思いました。そして、万博を見据えてそれに取り組んでいるということもありまして、あとあの辺で一番、福島だったら首都圏となったのですけれども、長野の場合は名古屋地区を見据えてやっているという、そういうことがあって、ポイントを絞っているというのがあるほどと思いました。

そしてあと、一番感心したのはヘーゼルナッツ。福島でもこういうヘーゼルナッツ的なものが何かなと、このようにずっと考えていたのですけれども、そういうのができれば本当に農家の皆さんにとってももう少し収入になってくるし、これから何とかそういうものを探していければなど、こう思いました。

以上です。

(七島奈緒委員) 私もヘーゼルナッツにインパクトを感じました。収穫しやすいとか、育てやすいというのですかね、あとまちぐるみでこれから新しくブランド化していこうという気持ちを感じました。夜に長野市民の方と少ししゃべる機会があったときに、ヘーゼルナッツが自分のまちをこれから発展させていくものだということを理解されていなかったのも、伸び率がこれからあるとともに、ちょっと余談になってしまうかもしれないのですけれども、帰ってきた後にこのヘーゼルナッツについてSNSで書いたら、福島市でも作っているよという方からメッセージいただきまして、すごく可能性があるということを知りました。代わるものかどうか分からないのですけれども、ヘーゼルナッツ、まねというわけではないのですけれども、チャレンジするのも面白いのかなと思いました。

以上です。

(後藤善次委員) まず、印象に残ったのは、観光を経験した村井課長がとても力を入れていたというのが印象に残りました。ですから、担当の方の方向性といいますか、そういうものも大きいのかなと。

それから、お話の中で購入場所は70%がスーパー、デパート、それからネットは5%にすぎないと、おおむね購入目的は自分で消費するためなのということ、これもやはり贈答用というよりは個人消費向けというの狙いどころになってくるのかなと思います。

それから、トップセールス、お話が出ておりましたけれども、福島に置き換えると近県で大きなと

ころ、どこなのかなと考えると、やはり仙台であったり、栃木であったり、あるいは埼玉、そういう福島の近県の大きな都市というものをターゲットにして福島は取り組んでいるのか、その辺は確認してみたいなと思いました。

それから、菜園がついた住宅、農業の体験を取り組む施設がここもありまして、福島の空き家を生かして、家庭菜園ではなくて、家の裏に畑があるとか田んぼがあるとかというのを、そこに農業体験を取り入れた空き家を活用する取組というのも福島で少しやっているようなことは聞きましたけれども、今後体験をしていただくという施設の準備というのは必要になってくるのかなと思いました。

以上です。

(村山国子委員) 首都圏との距離というのは、長野も福島も大体同じくらいなのです。東北だとやっぱり市場は関東圏になってしまうのですけれども、長野だと、トラックを使うと思うのですけれども、名古屋とか大阪の方面があるというので、高地でおいしい果物とか野菜というのが名古屋のほうに行ったことによってより売れているのだなというふうに思いました。長野県の取扱いが一番名古屋で多いというふうな分析もあったので、東京圏だと東北から全部行くので、なかなか福島県が一番というふうにはならないと思うのですけれども、もうちょっと別な都市を選んでみるとそういう可能性も出てくるのかなというふうに思いました。

ヘーゼルナッツについて皆さんからもあったのですけれども、やっぱり地域に合っている、そしてまた高齢化を見据えて軽い作業で簡単に収穫ができるという、そういう次の戦略を持つことが、皆さんからも出ましたけれども、考えていく必要が、次の戦略を考えるということが求められているなというふうに思いました。

あと、菜園付長期滞在施設については、やっぱり定住移住を目指すにはそういうきちんとした施設をそろえておいて、来てくださいねと言ったほうが入りやすいのかなというふうに思いました。

親元就農についても120万円を3年間支給するとかというのもあったので、やっぱり親元就農が一番近道かなと思うので、福島市ももうちょっと補助金とか引き上げていくことを考える必要があるかなというふうに思いました。

研修センターについても、やっぱりハードもソフトも必要ということで、福島市の場合は先輩のところに行って研修を教えてもらうとかというふうになっていますけれども、研修センターがあることで交流もできるし、きちんとした研修も受けられるというので、こういうのも農業者を増やすための方策としては必要かなというふうに思いました。

あと、地域おこし協力隊を農業に活用しているのです。普通だと観光とか、地域おこし隊っていいながら、あんまり福島には農業ではないかなって思うので、やっぱり地域おこし協力隊の活用も定住につながっていく可能性は大きいので、農業のほうで活用していくというのも求められているかなというふうに思いました。

以上です。

(佐原真紀委員) 私も、皆様から出ていましたが、長野県はブランド化戦略の他県へのPRがすごく上手だなと感じました。関東だけではなくて関西とかそちらのほうにもPRに行って、大きなイベントを開催しているということで、福島市がどれぐらい関西のほうで知られているのかがちょっと今分からないのですけれども、日もちのするものなんかは関東よりももっと南のほうにPRするのも大事なかなと感じました。

そして、ヘーゼルナッツについては、私もちょっと長野市民とお話したところ、長野市では力を入れているのですよねというお話をしても、ちょっと知りませんということだったので、まだまだ市内の方たちにも、始まったばかりなので、周知されていないのかなというのは感じました。

福島は農業体験にも長野を見倣ってぜひもっと力を入れてほしいなと思っているのですが、飯坂温泉や何かとか、ちょっと営業終わっているところなんかとコラボして、イベント的に何かそういった農業体験を大きく受け入れるのは可能なのではないかなというのを感じました。

以上です。

(羽田房男委員) どうもお世話になりました。長野市については、1つは市産の果樹ブランドの戦略化ということで、これは2つ感じてきました。1つは、果樹生産の底上げを図るために、令和5年2月に長野市産果樹ブランド化戦略を策定して、5か年計画で知名度のアップとか、他産地との差別化とか、高付加価値化、あとブランド化の地位の確立を図ってきたということで勉強になりました。これは聞き間違いなのか分かりませんが、主力品目である長野のリンゴは青森に次ぐ2位なのですが、40年前には市場になかったというのがちょっとメモには書いてあったのですが、これは私の聞き間違いなのか分かりませんが、そのような説明を受けました。長野の主力商品まで産地の知名度を戦略的に向上させてきたということで。

あと2つ目には、ブランド戦略に基づく事業ということで、東京都豊島区や墨田区、兵庫県西宮市でのイベントは、生産者も参加して自ら販売してPRを実施することで、消費者が直接生産者の顔が見える事業を図っているということは、消費者にとっても生産者にとっても有効な事業であり、本市としても学ぶことではないでしょうか。例えば本市の場合は、モモのトップセールスやミスピーチ、ピーチガールのイベントなどその販売イベントでは、変化のない事業をしているのではないのかと、そういうふうに感じました。また、東京都豊島区や兵庫県西宮市ではイベント観光、移住定住、ふるさと納税などに併せてPRをしていることと、さらに愛知県名古屋市、大阪府東大阪市でもリンゴ、特産品などの販売を行っており、戦略的に事業を実施しているということでした。

2つ目は、高齢化の農作業の負担軽減と耕作放棄地の拡大、担い手の減少対策についてですが、1つはヘーゼルナッツの振興事業ということで、果樹の現状及び課題を踏まえた持続可能な果樹振興への新たな展開を図るため、令和6年度にヘーゼルナッツ振興事業を実施していると。現在は成木ではないとの説明でしたが、成木であれば1本から約5キロのヘーゼルナッツが収穫できる見込みがあり、5年間で2万本の苗を販売する予定だというふうに説明を受けました。

2つ目については、菜園つきの長期滞在施設についてですが、大岡地区、旧大岡村に36施設が整備をされておって、菜園を耕作しながら生活することを支援する事業で、この事業、取組についても本市の就農事業の課題の一つではないかと思いました。その他、助成事業、地域おこし隊との連携事業についても参考になりましたというのが私の意見開陳です。

以上です。

（真田広志委員） まず、長野ね。本当に担当者の熱意というものを非常に強く感じたところでした。ヘーゼルナッツや何かも含めて自らいろんな栽培をやってみようという、そういった熱意というものは周りに波及していくのだろうなという。そういうことによってほかの職員に対しても相当な刺激になっているのだろうなというのをすごく感じたところです。熱意持ってやっていらっしゃる職員福島市もいっぱいいらっしゃるけれども、ぜひもうちょっといろんなのにチャレンジさせてみてほしいのかなというような感じがしたところです。

それから、販路、商圈の問題なのだけれども、皆さんおっしゃるとおりに、東北地方ってやっぱりどうしても東京圏に、首都圏に集中してしまうところがあって、どうしてもライバルが多いので、厳しいところって当然あるという話はよく聞きます。そういったところ、長野の地の利という、地の利というところなのか、何と言っていいのか分からないけれども、名古屋などを中心にターゲットを絞ってやっているというのは、これは非常にいい取組なのだろうなというふうな感じがしました。

トップセールス、これはもう首長が有名人、タレント議員だったりとか、アスリート議員というか、首長、どうしても選ばれがちだけれども、それがいい、悪い別にして、やっぱりこういうのを利用できるところはしっかり利用していくべきであって、そこは正直羨ましいなというところはあるのだけれども、そうはいっても実際有名人を首長に抱えるということはなかなかできるものでもないで、それに代わるようなものを、仕組みというものをしっかり考えていく必要があるのかなと。例えば福島でもミスピーチなんかやっているのだけれども、もうちょっと有名人と言ったらあれなのだけれども、知名度の高い方を起用してみるとか、そういったこともひとつ戦力的にはあるのかなんていうふうなことをちょっと思ったところです。

取りあえず以上ですかね。

（二階堂利枝委員） もうほとんど出てしまっているのですが、長野市は兼業農家さんがとても多くて、長野市と福島市の比較を出していただいたのですが、総農家数は福島市が4,976戸で、長野市は9,902戸なので、農業の土地の何ヘクタールとかというのはさほど変わらないのですが、農家数が何せ長野市は多い。ちょっと課長の話も聞いていて思ったのですが、やっぱり兼業農家さんが多くて、兼業農家さんだと、うちもそうだったので、休みの日にちょっと農家でもやっているという生活スタイルみたいなのがあって、そういったのがやっぱり農業をやるといのがちょっと本当に生活の一部になっているのかなと思いました。

クライנגアルテンというのがあって、県外から休みの日だけ農業をやりに来るという方のラウベという休憩小屋があって、そこを貸出しして、県外から週末だけ農業をやりに来るという場所があったり、これって福島市でもこういう施設ってあるのですかね。自分の家の周りが農家さん、畑とかがとても多いので、思うのですけれども、農地を借りている人でも周りにトイレとかがないと、やっぱり一日中農作業をやっているって厳しいのです。なので、やっぱりこういうトイレとか、ちょっとシャワーとかの場所があると農業もやりやすいのかなと思って、この大岡中ノ在家のクライングアルテンというのをちょっと、これ全部何かたしか人気で埋まっているって言うていたと思うのです。結構高いのに関東の方が借りてくれているみたい。こういうのも地域おこしみたいなまちおこしにはなるのかなって思いました。あとは皆さんとほぼ同じです。

以上です。

(根本雅昭委員長) ありがとうございます。

皆さんからそれぞれご意見いただきまして、皆さんからお話ありましたように、長野市は長野市産果樹ブランド化戦略を策定することによって、果樹生産地としての知名度を上げたり、また皆さんからもあったトップセールスですとか様々なPR、そして販路拡大、それだけではなくてやはり地元の方の消費も非常に多いというご説明を伺ったところであります。非常に本市にも参考になる部分でありますけれども、また農産地での生活、また就農を希望する方々が自然豊かな大岡地区などで菜園を耕作しながら生活することを支援する菜園付長期滞在施設も非常に有益な施策ではないかというお話がありました。また、そのほかにも人材育成の支援、担い手を確保するための親元就農者支援事業の実施、そして農業研修センターの開設等、様々な取組を行っているというところでご意見いただきました。また、ヘーゼルナッツですとか、あとはお話ありませんでしたけれども、果樹サミットなども開かれているというご説明を伺ってきたところでございます。

また後日正副手元で取りまとめますけれども、取りあえず次に行きまして。

(羽田房男委員) 私が申し上げた頂いた資料の8ページの産地の知名度というところあるのですが、アンケート集約結果の分析というところに長野はリンゴ、モモ、ブドウ全てにおいて名前が挙がっているということなのですけれども、そのところに長野のリンゴに丸を書いて、40年前にはリンゴはなかったというふうにメモしてあるのですけれども、これって私の聞き間違いですかね。

(村山国子委員) でも、そう言ったような気がするよ。最初の一步は何にもあるのだから、ヘーゼルナッツもやるべきだみたいな、そういう話だったような。

(根本雅昭委員長) では、後ほどちょっと正副手元で確認してみます。

(羽田房男委員) おそらくその後、後日になると忘れてしまうので、ですからメモのところになんと書いておいたけど、間違えていたのか。結構です。

(根本雅昭委員長) ちょっと確認いたしますので。

(羽田房男委員) いいです。

(根本雅昭委員長) 後ほど正副手元でちょっと確認させていただきます。

(根本雅昭委員長) あと、最後に言い残したことをおっしゃる時間也想りたいと思いますので、続いて群馬県高崎市の視察に関する意見開陳を行います。

今度逆回りで真田委員からぐるっとお願いできればと思います。

(真田広志委員) まず、造語なのだけれども、地産多消の推進ということで、農家さんに対しても、こういった多く消費していこうという意欲を見せていくということは、大きいなというふうな感じがして聞いていました。様々なプロモーション事業ということで、例えばユーチューブなんかも積極的に活用しながら、農家さんだったり、または積極的に活動している農業に取り組んでいる方の活動というものをユーチューブなど使って後押しをしていくということで、今どきでとてもよろしいなということですよ。

海外に対して、シンガポールなんかにも一生懸命積極的に売り出しているのだよというところなんかも、最近どこでもやっているの、どの程度の成果があるのかちょっといまいち話的には出てこなかったです。その後のつながりがどういうふうに広がっていくのかというところがちょっと見えてこなかったの、もうちょっと私調べてみようかなと思っていました。

それからあと、かがやけ新規就農者応援給付金ということで、これ結構手厚い。国の認定新規農業者支援以外にプラスしてそっくり上げるというのはなかなか手厚いよなというような感じがしていました。福島市でも新規就農者支援をやっているのだけれども、まず両方、国の支援なんかもしっかり紹介をして、こっちはこっちでというような感じでというような話がこの前の決算のときかな、答弁がありましたけれども、こうやって手厚くやっていけば、初めて農業に従事される方も多少安心してやっていけるのだろうなという感じがしました。ただ、これ全体の予算額って福島市とそんなに変わらない、福島市よりちょっと少ないぐらいの感じなのだけれども、そういった取組している割に新規就農者数が非常に少ないのがちょっと印象に残りました。多分その辺が大きな課題なのだろうな。我々のような果樹地帯のほうが一ひょっとしたら取り組みやすい、もしくはいろんな可能性を見いだしているのかなというようにところもちよっと思ったところです。そういったところもしっかりと検証していくことによって、この福島市の可能性というものが見えてくるのかなと思ったところです。取りあえず、資料なかったのですが、私の覚えている感想としてはそんな感じ。

以上です。

(羽田房男委員) 高崎市のさらに新しい高崎を目指して農業振興編というところで、真田委員からもありましたけれども、地産多消という言葉ですけれども、私は施策の展開の中で地産地消という、どこでも地産地消というふうに言っていますけれども、平成23年度から地産多消の確立ということで、それに向けて非常に様々な取組を推進するという、高崎市産農産物広報活動実行委員会というのを創設されて、主な活動として記載されておりますけれども、平成23年度、平成27年度、平成30年度から諸活動についても計画的に実施をしているのですよということで説明を受けました。

2点目については、今どこでも災害はいつ起きてもおかしくないという状況の中で、災害復旧に係る資金繰りや災害などが発生した場合にも迅速な復旧とスピード感を持った支援体制を構築して、農業者が安心して、かつ安定した生産活動が維持できる施策の取組など、農業者に寄り添った施策の展開を図っているのですよということでご説明を受けました。

さらに、3点目は農業者の規模拡大、新規就農者への支援ということで、令和4年度からかがやけ新規就農者応援給付金という創設事業を実施して、様々な形で支援事業を展開しているというところがありましたので、本市の農業振興の施策についても生かすところが非常に多かったのではないのかなという感想を受けました。

以上です。

(根本雅昭委員長) ちょっとここで羽田委員のところ、先ほどのリングは、140年前ということです。

(羽田房男委員) 1ついていた。

(根本雅昭委員長) 140年前。

(村山国子委員) そう、40年前って私も聞こえていた。

(真田広志委員) さすがに40年では短い。

(羽田房男委員) 私も40年ってちょっとおかしいかなと思って。だから、クエスチョンというふうに。140ね。

(根本雅昭委員長) 140。

(羽田房男委員) 桃栗三年なんていうからね。ありがとうございました。

(佐原真紀委員) 高崎市に関しては、群馬県ということでコンニャク類だったり、ソバ類とか、福島ではそんなに農業が盛んではないようなものにも力を入れているということを感じました。

そのPRも、先ほども皆さんから福島だとミスピーチキャンペーンクルーとか、そういったのでPRしているということでしたが、高崎のほうでは女優さんに生産者を訪問するツアーとか、メディアで情報を発信してもらっているとか、あとはユーチューブとかインスタとか、そういったのも利用しながら若い人向けにPRしているというのを見倣うべきだなと感じました。

農業体験なのですけども、食農教育に力を入れていて、これは総予算88万円とお聞きしていたのですが、親子での農業体験ツアーとか、あと市民、大人も対象とした、福島でもそういった幼稚園児向け、親子向け、そして成人向けといろんな食農教育でもっとPRするべきだなと思いました。福島も本当に安くないとなかなか参加者増えないとお聞きますが、こちらでは参加費2,900円とか、結構お値段高くてもすぐに参加者埋まってしまうということでしたので、こういった市の魅力をまず市民に伝えていくということも大事だなと感じました。

以上です。

(村山国子委員) もう出たのですけれども、新規就農者に対する補助メニューというのが結構充実しているなというふうに思いました。あと、6次化補助金とか、ブランド商品開発補助金とか、あと荒

廃農地の再生補助金とか、かがやけ新規就農者応援給付金とかというのが本当にそろっているなというのと、あと国の支援と併用できる、普通は国の支援受けている人は市の支援は受けられませんよみたいなのあるのですけれども、補助金に対して併用ができるということは積極的でいいなというふうに思いました。

私が一番感銘を受けたのは、新規就農者支援担い手育成事業というので、いろいろ相談があったときに、たらい回しではなくて、ワンストップで就農相談会を開催するというので、多方面にわたって皆さんが集まってやるということが新規就農者に対してはすごくいいのではないかなというふうに思いました。

以上です。

(後藤善次委員) まずは、地域柄としては、合併をして環境が一気に変わった時期があったと。人口が20万人から37万人に一挙に増えた。話によると、議員も100人以上いたときがある。そういうものを経験して、高崎市といえどもいろんな環境を持って合併が行われたと。そのいろんな環境の中で特産物がみんな違っている。それを市の職員の方は全般的に盛り上げようと苦労しているなというのをまずは感じました。

地産多消につきましては、ネットであるとか、ぐるなびであるとか、あるいは女優さんの起用、それからイベントに対してのキッチンカー、要するにネットを利用した情報の収集あるいは広報の宣伝にメディアを上手に使っているというイメージがありました。

それから、高崎トリニオン、海外への取組について、ただ単にトップセールスだけではなくて、きちんと組織化をして、準備をした上で乗り込んでいくというこの発想はほかにはないのではないのかなというふうに思いました。これに民間が絡んできちんと商売に結びつけているというイメージがありました。

それから、新規就農者支援については、かがやけ新規就農者の支援、これ金額とかを福島と比較して、ただ単に金額だけを比較するというよりは、その土地で何が特産物なのかというものもきちんと見た上で補助金というものを考えていくことが必要なのかなというのを感じました。

それから、この新規就農者の給付金について、年齢制限がないというふうに私は聞いていたのです。これから高齢化になっていく上で、若い方の就農だけでなく、お年寄りの方、お年寄りと言ったら失礼かもしれないのですけれども、高齢者の就農というものも支援していくことが大事なのではないのかなと思いました。

あと、長野でもありましたけれども、ここでも、就農する人たちのための住宅、ここの建物については平家建てなののですけれども、シャッターがあって、そこに農機具を収納したり、あるいは収穫したものをそこに運び込んでそこで作業をするという環境がついている住宅というのは面白いなというふうに思いました。通常の住宅ですと中では作業ができないと思いますので。家賃なんかも低廉で、すごく扱いやすい中身だと思います。

それから、6次化産業の補助金については、建物に補助金を出すというのは発想としてすごく面白いなと思いました。金額も1,000万円上限ということでしたので、平成27年から昨年まで100件近く利用しているのです。だから、ある意味この制度によって90件以上建物が出来上がって、そこで作業をしながら販売をしたりしているところが一挙にこの10年間ぐらいで増えたというイメージになると思います。強いて言えばこの建物が、平成27年にこの補助金を使った建物が今どんなになっているのか、それを見てみたかったなという印象を持っております。

それから最後に、農業の関心について、とても子供たちの段階で農業の体験をするものに力を入れている、あるいは特産物が何であるかというものを小さいうちから子供たちが知ることができる環境づくりになっている、この体験についてはとても子供たちが就農するための環境づくりとしては重要なことなのかなと思いました。

以上です。

(七島奈緒委員) 同じような内容出ていますが、地産多消の推進ということで、大手の代理店だったりとか企業との連携、ぐるなびまたはテレ東と博報堂さんとか、民間の力を使いながら上手にPRをしているのかなと思いました。ユーチューブなんか特にそうなのです。僕なんかもそうで、ユーチューブを見てそのまちに住みたいなとか、これを食べに行ってみたいなって思うので、登録者数が5,500人以上で、視聴回数も40万回見られているということで、どんどんPRはできているのを福島も見倣うべきかなと思いました。

また、その次のページ、4ページ、続きで、テレ東さんとタイアップということは、福島でもテレビ東京って番組別で買っているのです、あんまり放送ないのですけれども、まさにおそらく東京の人向けに移住定住を含めて農業の魅力、ドラマ仕立てにすることで若い人たちも含めて高崎に行きたいなと思わせることができているのではないかなと感じました。

以上です。

(白川敏明委員) 皆さんがおっしゃいましたけれども、私は一点地産多消ということで、なるほどと、こう思ったのです。普通は地産地消で、あと身土不二とかといって地元のを食べましょう、食べさせましょうという、ことだったのですけれども、やっぱりほかに売るのだったら地産多消なのですよね。この言葉をこれから使ってもいいのではないかなと、こう思いましたし、福島が駄目だというわけではないですが、やっぱりやっていることが結構、上手だという。今いろいろ話ありましたけれども、ネットを利用した販売とか、ネットはぐるなびでありますけれども、これネット販売って結構すごいのですよね。昔オイシックスというところで出品していて、本当にこんなに高く売れるのかいというのが結構売れるのです。そういうことがあるので、そういうのを本当上手に利用してやっていくのもこれから重要なことなのかなと、こう思いましたし、あと海外。海外のほうについては最初シンガポールで何か、博報堂と一緒にやっているのでしょうかけれども、シンガポールに出張所か会社かつくったのですよね。そういうことも、そこまでして本腰を入れてやらないとできないのかなと、

海外に売るといことはなかなか難しいのかなと思いました。

そして、シンガポールの次に今度は台湾。これは、台南市に行ったということが、普通だったら台北なのですね。そういう目のつけどころもちょっと違うなと思って、うまい具合にやっているなど、こう思いました。

そしてあと、皆さんがおっしゃいましたように、農業の6次化とかの支援、あとは新規就農者の研修施設、これ最長3年間いれるみたいなのですけれども、例えば福島市の場合はそういう場所がなくて、ただ空き家をこうやってどうのこうのって。そうすると、最終的には悲しい結末になる場合もあるのです。こういう施設があれば、ああ、駄目だ、やっぱり私できませんでした、今度は本格的にやりますという段階でそういうふうで紹介するとか、これは本当いい施設だなと思っていまして、農業に対する支援というのができているなど、こう思いました。

以上です。

(二階堂利枝委員) もうほとんど出てしまっているのですが、子供たちに食育で地元の農産物を食べさせるというのは、本当に地元のものっておいしいと思うので、食育といたらやっぱり地元からかなって思います。

それと、やっぱり皆さんからも出ているのですけれども、補助金のメニューがとても多いのと、そして予算枠が1人とか1件当たりの上限額が高くて、補助率が福島市だとよく2分の1とか3分の1とかが結構多いのですけれども、高崎市は補助率が5分の4とか3分の2とか、補助率が高いというのですかね、多いというか。なので、何かやるにしても全て結構高いので、それが5分の4とか出してもらえとかというと、農家さんも助かるのですけれども、今度そういう業者さんもやっぱりそういうのをどんどん使ってもらえるというので、どんどん本当に農業が、全てにおいてまちおこしにはつながるのかなって思います。

以上です。

(根本雅昭委員長) ありがとうございます。

それぞれたくさんご意見出していただきましたけれども、多かったのは地産多消という取組かなというふうに思います。これは、推進するために様々なメディアを使ったPR活動ですとか、またあとワンストップの相談窓口といった話もございました。また、滞在型の研修施設、新規就農者研修施設、こういった施設によって新規就農しようとする方が農業の担い手として早期に自立できるように総合的に支援されているという話もございました。また、たくさんの補助メニューが非常に充実していて、国のメニューとも併用できるといったような、なかなかほかに例のないような取組というお話もありました。また、農業体験会などなどお話がございましたので、後ほど整理させていただきたいと思います。

それでは次に、最後になりますけれども、新潟県長岡市の視察に関する意見開陳を行いたいと思います。

また白川委員からでよろしいですか。

(白川敏明委員) これスマートアグリとなっていますけれども、私いろいろ今回説明受けて、そしてこう言っでは失礼なのですけれども、聞いたことは大体今まで聞いてきたこと、見てきたことがほとんどという気がして、田んぼの水位計、これどういうふうにやっているのかな、それはあれだったのですけれども、あとほかのは特別、福島市だって私たち地元の視察で果樹園に行って、ラジコンで自動的に刈ったりする草刈り機とか、そういうのも見てきていますし、実際に無人のものもやっていますので、そんなにはなるほどとは思わなかったのですけれども、農業の取り組み方の熱意、それは感じました。例えばトマトの栽培、私らこれも吾妻地区のほうに視察に行きましたよね。同じことやっているなど、こう思ったりして、私個人的にはいわきのほうに行ってトマトのハウスを見学して、結構同じような感じで本当に最新の技術でやっているのを見ました。

そしてあと、ここに書いてある環境保全米ブランドということで、小さな生き物たちと育むお米ってあるではないですか。でも、これ米って消毒しないとできないのになと思って、ちょっと複雑な思いで、本当にこれ消毒やっているのだろうか、どうだろうかとか。

そして、米のうまい米コンテストなんてありましたけれども、これははっきり言ってどこに行っても米はうまいのですよね。だから、私これはあまり意味がないことなのかなって、こう思ったのですが、ただ売り込み方次第だと思いました。

以上です。

(七島奈緒委員) お邪魔したあぐらって長岡さんが誰でも農業者から子供まで農業を研修、体験できる場所ということで、他県から来た人たちも体験できるというお話だったので、気軽に農業と触れ合える機会ができる場所ということがまず素晴らしいとともに、スマート農業を勉強させてもらった中で、さっきのラジコン草刈り機もそうなのですけれども、違った目線で学生たちのベンチャーということで、そういうスマート農業をつくる側だったりとか、違う目線で農業を見ていけるような機会がつけれる施設なのかなと思いました。

また、スマート農業の導入件数の割合のページで1,500万円とか3,000万円の補助金の対象、5件の目標に対して16件だったり、5件の目標に対して36件だったり、需要があるのだからって感じました。

あと、ドローンの体験、僕はやっていなかったのですけれども、見ていて、バッテリーが20分もって5万円で購入するということだったので、20分で散布する技術がなければ当然三、四本ぐらい必要になるのかなと思っていて、まだまだお金がかかる場所だなというので、福島市に関しても補助を増やしていく可能性はあるのかなと思いました。

以上です。

(後藤善次委員) また、土地のイメージから入りますけれども、日本海側から雪の奥深い山村まであるという長岡市。その中で野菜も作っていた。あるいは、漁業の方もいた。その人たちを米のスマート化で引き込んでいこうというような思いもあるのかなという気がしました。これだけ米を作れば売

れるというような米どころの取り組み方の違いというのをすごく感じたのです。福島の米の取り組み方とは全然レベルが違うというイメージでした。

そこで、スマートアグリ長岡については、米に特化した農業はスマート化しやすい業種というのですかね。福島は果樹が多いので、スマート化できる方法を今の栽培方式で考えるのではなくて、スマート化できるような栽培方法に変えていくということが長岡から学んでいくことなのかなという気がいたしました。要するにスマート化しやすい農業に福島の農業も変わっていく必要があると。

長岡でも進まない理由というのが明確になっていました。これは福島でも私たちがこれまで視察してきた、あるいは情報を得てきた中ではまさに同じ内容だと思うのです。スマート化で何ができるのか。それが理解されていないためになかなか取り組めないということ、それから費用対効果が合わないということ、そこがやはりスマート化のネックであるということを経験認識で取り組んでいかなければいけないのかなと思います。

その上で、農業体験ができる施設で、メーカーを問わずに自分がやっている仕事をいかにスマート化するかという観点で機械を選ぶことができる、ドローンも30万円から200万円でしたかね、機能に応じて使えるものを選ぶというようなことを選定できる場所があるということがいいことだと思いました。

もう一つは、あの施設に若い方の発想というものが取り組みやすい環境になっている。若い人が農業に入っていくためにはどういうことをスマート化すればいいのかということを経験として考える拠点になっているのではないのかなと思いました。

最後に、IoTモニタリング事業なのですが、これは福島市も、規模は違いますが、取り組んで進んでいこうと思っているところだけでも、市内600以上のところにセンサーを取り付けて、これをビッグデータ化していくということ、これがビッグデータ化されたら福島でも大いに利用させていただきたいなと思うような感じでした。この土地は海から山までありますから、いろんな環境がある。福島に適した環境もおそらく長岡にはあるのかなと思いますから、ビッグデータを大いにこちらでも利用させていただきたいなと。

以上です。

（村山国子委員）職員の皆さんの熱意がすごく感じられたなというふうに思って、長岡市の農業の課題ということでは、まず問題点、課題について出していて、他の地域よりも高齢化が進んでいると、あと、今回米のこととかいろいろ聞いてきたのですけれども、稲作は面積が横ばいということで、結局は農家に負担が行っているというので、その課題について解決すべくいろいろ考えているなと思いました。

おいしい米を何とか盛り上げたいという感じをすごく感じて、IoTのモニタリングに関しても、普通だと業務委託か何かするのではないのかなって思うのですけれども、自分でやっていく、そして農家の皆さんと直接接していろいろ話し合いをしている、そういう姿勢がすごく熱意を感じられてすばら

しいなというふうに思いました。やっぱり高齢者の皆さんがスマホでIoTのモニタリングを見ていくなんてちょっと想像できないのですけれども、実際は楽になったとかという話を聞いて、本当に農家と職員の皆さんが一体になってやっているなという感じにすごく感銘を受けました。

以上です。

（佐原真紀委員） 次世代に向けたスマートアグリを体験していただくというのはすごく大事ななと思っていて、県外の方の新規就農希望者対象もそうなのですから、福島市内でも就職を考えた上でこういった農業だったらできるという人をさらに増やしてほしい。今までの農業のイメージが自分には向かないと思っていても、こういったスマートアグリを取り入れた農業のやり方があるということを知ること、福島市内での新規就農者も増えるのではないかと感じました。

個人的にはドローンの操縦をさせていただいたのがすごく印象的だったのですけれども、やはり皆さんから出ているように大分お金がかかるということもあって、市からのサポートがないとまだまだ難しい状況なのかなというのを感じました。

でも、これ長岡では目標値を超える数の農業経営体がスマート農業技術導入につながっているということで、お聞きしたのは6割から7割が導入しているということなので、福島市の導入率も改めて知りたいなと感じました。

あとは、先ほどトマトもいわきとかも力を入れているとご意見ありましたが、いわきのフラガールという名前がついたプチトマトだったり、そういったその市ならではのブランド化したものについてスマート農業を入れて本当に力を入れている点や、研修する施設なんかは二本松の東和とかも宿泊型で農家民泊と農業体験というのをセットですごく力を入れているので、福島もそういったいわきや二本松など近くでももっと学べることもあるのではないかなと感じました。

以上です。

（羽田房男委員） 長岡市の農業については2点ほどです。1点目は農業の現状ということで、表にも示されておりますけれども、2015年と2020年の対比ということで説明を受けましたが、2015年から経営体数が約27%減少しているということで、5,197経営体から3,795経営体、高齢者率が5年間で5%も上がってしまった。水田面積や園芸面積についてはほぼ現状ですけれども、非常に水田の負担は増加しているという説明を受けまして、なかなか稲作といいますか、米作りに依存した経営体の中で米価の下落だったり、物価の上昇についてかなり影響が多いのだということで、課題については生産性を上げたり、農業で働く人を増やすしかないよねというような説明を受けました。なるほどというふうに、福島の現状も似たり寄ったりといいますか、同じなのですが、経営体が27%も減少している中で水田や園芸面積がほぼ変わらないということが、どうやってカバーをしているのかなというのはちょっとお聞きすることができませんで、残念だったなというふうに思います。

2点目についてはスマート技術を使った農業ですけれども、作業ですけれども、一番人気はドローンで直接もみをまくと、2番目については自動操舵のトラクターと、3番目はスマホで確認する田ん

ぼセンサーの設置なのですよというふうに説明を受けましたが、やはり多く課題があつて、これも2つほど私が聞くことができなかったのですが、ドローンでもみをまく技術について、もみが満遍なく生育してしまうので、どのように管理をしているのかということです。雑草の駆除や害虫対策など、どのようにドローンでもみをまいた後、どのような作業をしなければならないのかということについてお聞きできませんでした。

もう一点は、高齢化率が5年間で5%上昇している中でスマート技術の導入が図られ、今後の見通しについてもお聞きすることが残念ながらできなかったということです。

3つ目は、ハウス栽培、トマトのところで中を見せていただきましたけれども、説明の中でも若者や女性の参入しやすい事業ではないかというような説明がありましたが、設備投資、費用対効果という言葉も後藤委員からありましたけれども、何年で投資費用といいますか、設備投資をした費用が収入に対して何年たったら均衡が保たれるのかなということが非常に課題なのかなと思いました。設備投資ということになりますと、実はうちの近所にも東日本大震災とか福島県沖地震で農業の納屋が非常に被害を受けたのですが、その方がおっしゃるのには約2,000万円の建て替え費用がかかるのだというふうにおっしゃってしまして、その2,000万円を出す金がないと。やるのだったら借りるしかないんです。ですから、被害を受けたその農業小屋といいますか、作業場は震災の被災の関係で解体はしてもらえた、ただ、建てるのには2,000万円もかかってしまうということで、非常にそういう意味では悩んでいるのですという意味で相談を受けたのですが、結果的には地域の中では現状のままとということになっております。

スマート農業の体験施設、本市でも設置については検討してはいかがかなというふうに思います。

あとは最後にですが、長岡のうまい米コンテストということについては、非常にいろいろ見方があるだろうと思いますけれども、生産者の意欲向上につながるということでは非常にいい取組なのかなというふうに思っています。

以上です。

(真田広志委員) まず、長岡市は非常に印象的だったのが高齢化率と、それから経営体数がここ5年間で30%近く減っているということで、かなり危機的な状況なのだろうなというところが見てとれます。福島市は大体この5年間に経営体数でいうと2割ちょいぐらいかな。そこから踏まえると急激に農業離れが、農業者人口が減っているのだなということが非常に印象に残ったことです。

その解決に向けた政策として1番に挙げていらしたのがこのスマートアグリ技術ということで、それは福島市からの、こちらからの話の持っていく方でこういうふうなつくりになっているのかなという感じで、スマートアグリでどこまでこれを立て直せるのかなというのはちょっと疑問になるところでございますけれども、スマート農業化にかけては、例えば補助金の話も先ほど来出ていますけれども、ある程度品目を限定しながらということで、ただその代わり福島市の場合は、まだ補助が始まったばかりなのに、あっという間に補助上限に来てしまったという話もありましたけれども、こちら長岡市さん

では補正なんかもしっかり組みながら、今のところ申入れがあった方々に対してはしっかり補助できているのだよという状況という話をいただきました。なかなか、今までいろんな都市を回ってきましたけれども、ある程度一定数補助上限ってしっかり予算の中で決めているので、こういったところってちょっと珍しいよな、よっぽど力を入れていらっしゃるのだろうなって。ただ、これがどの程度農業者数につながっていくのかということもこれから経営体もこれだけ減っている中でしっかりと検証していく必要はあるのだろうなという感じがしていました。

先ほど来バッテリーが20分しかもたないということで、どれだけの効果が見えてくるのかなって。例えば品目を限定する中で、ドローンに関してはいわゆる田植なんかもしっかりできるようなものなのですよといったことなのだけれども、今現在田植、種もみの噴射というものに関して効率性とかそういうものを非常に疑問視するところがあって、相当大型のものでないとなかなかやっていけないよねというような話もある中で、そういった質問をしてもちょっと何か答えが出てこなかったのも、おそらく今のところ農薬、肥料の散布というところで特化してやっているのだろうなと。それに関してもやはり20分のバッテリー、この前使っているときもちょっと飛ばしたらもうバッテリーないのでえっ、当然充電していたはずなのになんで、なんてちょっと思いましたけれども、そういった様々な課題なんかもあるのだろうなと思っています。そういったところ、今回行政視察なので、本当はそういった課題をしっかり聞いておきたいなと思ったところなのだけれども、そこまで聞くには至らなかったのがちょっと残念でした。ただ、いずれにせよスマート農業化ということは我々もしっかり進めていかなければいけない部分なので、当局の後押しをする意味では参考になるところはあったのかなという、ということですよ。特に目新しいことをやるということではなくて、しっかりと予算をつけなさいという意味では参考になったのかなと。

あと、ブランド、小さな生き物たちと育むお米、環境保全米ブランドということで、ブランド化したわけですが、これ何か等級に限定しないのだよと。先ほど白川委員からもお話がありましたけれども、今どこのお米も本当においしくなっていて、これはもう完全に環境保全というものに特化したもので、これどちらかというと等級に限定しなかったら、そこは良識に任せるとは言いつつも、品質の劣るものは当然混ざってしまうのだろうなというような感じはしているのだけれども、そこはそこで環境意識の高い方々はこういったものに対してやっぱりそれこそ喜んで買っていただけるものなのだろうから、こういった特異性を一つ見いだしていくというのも面白いのかなというふうな感じはいたしました。

そういったところですかね。何かまだあったような感じがしますが、こんな感じであります。

（二階堂利枝委員） スマート農業は、本当に実際ドローンを使ってみて、私はドローンを操作していないので、話を聞いていなかったのも、分からないのですけれども、20分しか動かないとか、そしてやっぱり草刈り機でも自分で動かしてみても私は本当に欲しいって思ったのです。やっぱり本当に自分でこうやってどこかで操作してみても体験できると購入しようかなって、それを導入してみようかなっ

て思えるので、やっぱり福島市でもスマート農業のそういう機械を扱えるというか、何というのですかね。研修施設みたいなのが、例えば四季の里とかで何かこういうのが子供でもちょっといじれますよみたいな施設があればちょっと楽しいかなって思いました。

それと、環境保全米ブランドなのですけれども、これはやっぱりこれからの持続可能な農業というのが本当の取組だと思って、2050年までに国の政策で有機農業を25%拡大するという取組があるので、やっぱり福島の農業もその国の方針には沿っていかないと持続可能としては動いていかないのかなと思うので、今長岡市さんから頂いた資料の19ページの目指す姿、もうかる農業と環境保全のサイクルで持続可能な農業生産を実現というこのロゴマークの高付加価値化とか、これとやっぱり今福島が目指しているものって本当同じなのかなって思います。やっぱりエシカル商品はこれから多分エシカルという言葉がなくなるぐらい、もうあと何十年後かには当たり前のことになると思うし、こういった環境保全農業というのはこの長岡市はかなり先進地域かなって思って見ました。

以上です。

（根本雅昭委員長） ありがとうございます。

皆さんからそれぞれご意見いただきまして、やはり長岡市はしっかり課題を明確化して、ビッグデータなどデータを集めて、解決に向けて着実に進んでいるのではないかというご意見だったかと思います。実際にスマートアグリの話がたくさん出ましたけれども、これまでは資料の中にも確認するだけ、またこういうものをどうですかと広報するだけだったものが、それでは情報不足、費用対効果への疑問などがあったというところで、それを解決するために次世代農業拠点施設、お伺いしたあぐらって長岡でのいつでも誰でも体験できる施設の整備ですとか、また補助金、そしてIoTのモニタリング事業につながっているというようなお話だったかと思います。

皆さんからそれぞれ3市のご意見をいただきました。言い残したことある方いらっしゃいませんか。大丈夫ですか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（根本雅昭委員長） それでは、ご意見ありがとうございます。本日いただいたご意見につきまして、先ほど来申し上げておりますとおり、正副委員長手元で内容を整理させていただきまして、調査のまとめの際にお示しさせていただきたいと思います。

では、行政視察に関する意見開陳は以上といたします。

次に、今後の調査の進め方についてを議題といたします。

同じフォルダーのスケジュール（案）をご覧くださいと思います。次回からは、委員長報告のまとめによいよ入ってまいりますけれども、まず12月下旬に調査振り返り、提言項目等についてご協議いただきたいと考えております。その後、素案の協議を行いまして、2月下旬には各会派で委員長報告をご確認いただきまして、3月定例会議で委員長報告を行いたいと考えております。そのように進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(根本雅昭委員長) ありがとうございます。それでは、そのように進めさせていただきます。

以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午前11時15分

散 会

経済民生常任委員長

根 本 雅 昭